

ベリーズ犯罪等発生状況（令和6年10月分）

[殺傷事件関連]

10月6日[侵入者へ刺傷] 午前5時頃、ベリーズ郡ローズバンク村で就寝中の女性（24歳）が自宅へ侵入してきた不審者をナイフで刺して撃退する事件が発生した。警察によると、女性は下階の大きな物音で目が覚め、様子を見に行ったところ見知らぬ男性と遭遇した。女性と男性はもみ合いとなり、女性は近くにおいてあったナイフで男性の背中を2回刺した後、外へ出て大声で助けを求めた。男性はその場から逃走した。この襲撃で、女性は首と胸部に軽い引っかき傷を負った。

10月9日[刺殺事件] 午後7時頃、ベリーズ市レゲエ通りで男性（35歳）が刺殺され、自宅の庭で発見される事件が発生した。警察によると、事件発生前に被害男性は近くの店に買い物へ行くと自宅を出たが、被害男性の娘が自宅の庭で不審者と被害男性が争っているのを目撃し警察へ通報。数分後、駆けつけた警察官が庭で刺し傷を負って動かなくなっている被害男性を発見した。その後、被害男性は病院へ救急搬送されたが、死亡が確認された。なお、同市で殺人事件が発生したのは8月4日以降、9月24日に非常事態宣言が解除されてから初めての殺人事件となった。

10月22日[銃撃事件] 午後9時頃、ベリーズ市サンタバーバラ通りで女性が銃撃される事件が発生した。警察によると、被害女性は自宅へ帰宅するため父親の家から出たところで銃撃に遭い、首に激しい痛みを感じその場に倒れ込んだ。その後、駆けつけた警察官により被害女性はKHM病院へ救急搬送され治療を受け、一命を取り留めた。その後の捜査で、銃撃事件が発生した現場付近の民家にも銃撃された痕が発見されており、警察は地元ギャング団による無差別的な銃撃事件として捜査を行っているが、夜間に発生した事件のため監視カメラでの確認が難航しており、住民へ広く情報を求めている。

10月26日[銃撃事件] 午後7時頃、ベリーズ郡ローズバンク村で男性2名が負傷する銃撃事件が発生した。警察によると、夜間パトロール中にローズバンク村の幹線道路とフィリップ・ゴールドソン・ハイウェイとの交差点付近にあるベリーズ水道局の前に1台の不審車両が停車しているのを発見した。警察官が車内を確認すると沿岸警備隊の男性（27歳）と友人男性の2名が銃撃され負傷していた。その後、被害男性らはKHM病院へ救急搬送され治療を受け、沿岸警備隊の男性は一命を取り留めたが、友人の男性は危篤状態である。ローズバンク村へ向かって走行中に何者かに襲撃され負傷したと述べている。

[強盗事件関連]

10月6日[侵入強盗事件(当館注目)] 午前1時30分頃、ベリーズ市在住の有名な女性インスタグラマー(33歳)が、自宅でライブ配信中に銃を突きつけられる強盗被害に遭った。警察によると、被害女性が自室でライブ配信中、銃を所持したマスク姿の男が突然侵入してきた。男は被害女性をケーブルで縛り上げ、iPhone 2台、アンドロイドのスマートフォン1台、ブレスレットがセットになった腕時計、被害女性の運転免許証と銀行カード、現金が入ったGUCCIの財布が盗まれ、被害総額は6,812ベリーズドル(約51万5千円)だった。男はその後逃走し、女性にけがはなかった。

10月6日[強盗事件] 午前7時頃、トレド郡プンタゴルダ町ホセ・マリア・ヌニェス通りで強盗事件が発生した。警察によると、店内を清掃中だった店主が2名の強盗犯に襲われ、1名は銃を所持していた。店主はその場から逃げようとしたが、強盗犯の1人が店主を捕まえ、頭部を殴り店内へと引き戻した。強盗犯達は防犯柵を閉め、銃で店主を脅し金銭を要求した。店主は、売上金の5,000ベリーズドル(約38万円)を強盗犯へ渡し、金を受け取った強盗犯達はその後から逃走した。

10月9日[首都で2件の武装強盗事件(当館注目)] 午前10時30分~正午頃、ベルモパン市で連続して2件の武装強盗事件が発生した。1件目の事件は、ボーエン&ボーエン社(ビール飲料メーカー)のトラックが同市内のスーパーマーケットへの配送途中、武装した2名の強盗犯の襲撃に遭い売上金7,000ベリーズドル(約53万円)が強奪された。2件目の事件は、同市内の薬局に武装した強盗犯が押し入り、売上金300ベリーズドル(約2万2千円)が強奪された。後日、警察の捜査により、2件目の事件の首謀者と見られる4名の容疑者が逮捕された。その内の1名は、女性警察官だった。なお、この2件の強盗事件に関連性はないとされている。

10月15日[窃盗事件] ベリーズ市ホーリー・エマニュエル通りに住んでいる男性(22歳)が自身の友人2名から携帯電話を騙し取る事件が発生し、逮捕、起訴された。警察によると、男性は友人に対して、知人に電話をかけるため携帯電話を貸してほしいと頼み、携帯電話を受け取ると電話をかけるふりをしてその場から逃走し、その後、男性は盗んだ携帯電話を売り払った。この事件の被害総額は770ベリーズドル(約6万円)だった。公判の場でこの男性は、ギャングに借金があり返済できなければ危害を加えると脅され、携帯電話を盗んだと主張している。

10月18日[首都での武装強盗事件(当館注目)] 午後3時30分頃、ベルモパン市フォレスト大通りでボタンガスを販売している会社でけん銃強盗事件が発生した。警察による

と、青いスクーターに乗った男性が販売会社の駐車場に到着し、従業員が接客のために外へ出たところ、男性は店内へ戻るよう命じ、店内に入ると男性は銃を取り出し従業員へ現金を渡すように脅迫した。従業員は男性の要求に従い、当日の売上金2千ベリーズドル（約15万円）を手渡した。現金を受け取った男はその場から逃走し、従業員にけがはなかった。

10月22日【強盗事件】 午後7時頃、ベリーズ市に住んでいる男性の部屋で強盗事件が発生した。警察によると、家主の男性が帰宅すると部屋が荒らされおり、金庫に保管していた宝石、腕時計、38口径の実弾20発が入った黒いポーチが盗まれていた。被害総額は推定5,000ベリーズドル（約38万円）にも上る。引き続き警察が、捜査を行っている。

【違法薬物、違法銃器等関連】

10月2日【麻薬密売事件】 密売目的でマリファナ87,8グラムを所持していた罪で男性（29歳）と交際相手である未成年の少女（17歳）がベリーズ裁判所へ出廷した。警察によると、事件は1日に男性の自宅を家宅捜査した際にマリファナを発見し、現場に居合わせた共犯とみられる少女と共に逮捕、起訴された。裁判官は、保釈金1,500ベリーズドル（約11万4千円）を男性と少女へそれぞれ命じた。なお、男性には渡航禁止令、警察への定期連絡等の厳しい条件下で保釈を認め、少女は成人の保護下でのみ保釈が認められた。

10月5日【規制薬物の密輸及び関税違反】 ベリーズ市フェアウェザー通りに住んでいる元アメリカ空軍の退役軍人のベリーズ系アメリカ人の男性（90歳）が大麻草の密輸及び未申告の多額の米ドルを所持していたとして逮捕、起訴された。警察によると、男性はフィリップ・ゴールドソン国際空港に到着した際、約2,3キログラムの大麻草を所持しているのが見つかり、その後の取り調べで未申告の30,000米ドル（約4百6十万円）を所持していたことも判明した。男性は規制薬物違反の罪で7,000ベリーズドル（約53万円）と関税違反の罪の101,440ベリーズドル（約7百7十万円）の即時支払いが命じられた。この支払いを怠った場合、男性には懲役3年以上の刑が科せられることになる。

10月17日【規制薬物の密輸】 観光目的でベリーズへ入国した米国籍のトラック運転手の男性（41歳）が規制薬物を密輸したとして、フィリップ・ゴールドソン国際空港で逮捕、起訴された。警察によると、空港に到着後に手荷物検査を受けていた男性からマリファナの強い臭いを感じた税関職員が身体検査を行ったところ、男性の下着に隠されていた40グラムのマリファナを発見した。その後の裁判で男性は自身の有罪を認め、裁判費用を含む1,005ベリーズドル（約7万7千円）を即時支払い、釈放された。

10月24日[規制薬物の密輸] 正午頃、コロザル郡内のフィリップ・ゴールドソン・ハイウェイの66マイルと67マイルの区間で大量の大麻を密輸しようとしたタクシー運転手の男性が逮捕、起訴された。警察によると、同区間で行われていた検問所でこの男性が運転するタクシーの車内を確認したところ、約9,5キログラムの包装された大麻を発見した。男性はその場で、他人に販売する目的で規制薬物を所持していた罪により逮捕され、正式な判決が下されるまで中央刑務所に拘留されることになった。

10月25日[規制薬物所持] ベリーズシティの6番街に住んでいるベリーズ系アメリカ人の男性(35歳)と恋人のアメリカ人女性(34歳)が大麻草及び麻薬使用器具の所持という2つの罪で逮捕、起訴された。警察によると、容疑者らが自宅で規制薬物を所持しているとの通報を受けた警察が家宅捜査をしたところ、約59グラム的大麻草と大麻を使用するために改造された長さ約15センチのパイプが発見された。裁判官は、両名に対して条件付で1,000ベリーズドル(約7万6千円)の保釈金を支払えば保釈を認めるとした。男性は保釈金を支払い保釈されたが、女性は保釈金が支払えずベリーズ中央刑務所へ収監された。

10月28日[密輸飛行機とコカ畑の発見(当館注目)] トレド郡グラハムクリーク村郊外において麻薬を積んだ飛行機と違法に建設された滑走路をベリーズ国防軍の兵士がパトロール中に発見した。発見した当該機には密輸目的のためと思われる大量の麻薬が積み込まれており、その他の貨物は見つかっていない。当該機の機首部分にはメキシコ国旗の記章が付けられており、自生していた付近の植物で機体は隠されていた。また、当該機が発見された場所から50メートルほど離れた場所には違法に建設されたと思われる滑走路も発見されており、この滑走路の周辺はセメントで補修された跡や最近まで使用されていた形跡が確認されている。さらに国防軍の兵士の調査によると、村の周辺には3つのコカ農園やグアテマラへの不法出入国のためルートと思われる道と2つの橋が発見されている。この不法ルートは麻薬運搬や人身売買のために使用されていると見られている。なお、国防軍は、フライト情報が記録されている機器を回収し、警察と共に関連事件について捜査を開始したと発表した。

10月29日[規制薬物所持] 午後6時頃、オレンジウォーク郡に住んでいる消防士の男性(40歳)が規制薬物所持の罪で逮捕、起訴された。警察によると、以前から規制薬物の使用が疑われていた男性宅に対して警察が家宅捜査を行ったところ、大麻24グラム、コカイン0,7グラムが発見された。男性はその場からの逃走を図ったが警察官らに取り押さえられ、拘束された。その後法廷で男性は自身の有罪を認め、裁判費用を含む罰金1,205ベリーズドル(約9万2千円)の支払いが命じられた。

[その他事件・事故関連]

10月24日[爆破予告事件(当館注目)] 午後1時頃、ベルモパン市の首相府や経済開発省の入るエドニー・ケイン・ビルが爆破予告される事件が発生した。警察によると、同市内のラジオ局に「経済を終わらせる。政治に終止符を打つ」という旨の電話をかけ、建物の爆破を予告した。その後、通報を受けた経済開発省の職員は建物の外へと避難し、現場へ駆けつけた警察官らにより爆発物の搜索作業を行った結果、安全が確認された。この事件は、悪質ないたずら電話として処理された。後日、スタンクリーク郡レッドバンク村に住んでいる男性が容疑者として逮捕、起訴された。逮捕された男性は、首相と話したかっただけで、害意はなかったと主張している。